

昭和9年の室戸台風による 洪水時の最高水位標識の保存運動

就実高等学校放送文化部 代表 若松純恵

はじめに

本活動は、昭和9年9月に岡山地方を通過した室戸台風がもたらした大洪水の痕跡の調査と保存活動を通して、防災への啓発を促すことを目的としたものである。

昭和9年9月21日、岡山県を襲った室戸台風の被害は、死者145名、負傷者348名、全半壊家屋は4560棟にのぼった。

岡山市での被害も大きく、市内を貫流する旭川（百間川を含む）は15カ所にわたって決壊、市域の大半が浸水した。この未曾有の災害にあたって当時の内務省技官の安田憶治氏はこの水害で浸水した市域の10カ所に最高水位を示す銅製のプレートを付けてまわり、後世への警鐘としようとした。

また私設の物も7カ所が設置された。これら災害当時設置された官民あわせて17の最高水位標識は昭和51年には10カ所に減少、また室戸台風から70年目の現在はわずか9カ所が確認できるにすぎない。

平成15年9月、校内にこの水位標識の一つが残されているのを知った放送文化部では、岡山市内の水位標識の現状がどうなっているのかに関心を抱き調査を始めた。その結果、水位標識が今では9カ所しか確認できないことがわかり、このままではやがて失われてしまうのではないかと考え、保存活動を始めた。そして新たな洪水の痕跡を発見したり、新しい水位標識を設置するなどの活動を2年がかりでおこない、活動の様子を2本のビデオ作品としてまとめた。このビデオ作品とCDに納めた写真などの資料をもとに防災教育用プログラムを作成した。今後、各方面での利用を願う学校をはじめ関係機関への配布を計画している。



写真1 洪水により浸水した私達の学校（昭和9年）



写真2 岡山市内に残る最高水位標識の一つ（倉敷紡績岡山工場内）

活動の経緯

15年度 保存運動Ⅰ．（調査・ビデオ制作①）

昭和51年発表の『昭和9年岡山地方大洪水時の最高水位標識の保存について』を参考に現在残っている水位標識の現状調査（資料1）及びビデオによる取材をした。そして水位標識が無くなったり、水位標識は残っているが説明板がないため内容がわからないものが多いことに気づき、永く残る説明板の必要性を感じた。また室戸台風の洪水から70年近くを経過した今、当時を知る人は徐々に少なくなり、今やっておかなければ永久に失われて

資料1 昭和9年室戸台風後に設置された水位標識とその後の保存状態

		昭和9年当時	市町名	昭和9年	昭和51年	平成15年	東京湾	路面よりの高さ	
							中等水位 m	m	測定年
①	内務省設置	岡山城公園石垣	丸之内1丁目	○	○	○	7.5	2.9	37
②		中国銀行本店角	丸之内2丁目	○	○	○	6.1	1.6	37
③		岡山電話局角	中山下1丁目	○	○	○	4.6	2.3	37
④		就実学園新体育館	弓之町	○	○	○	4.5	0.6	46
⑤		三勲小学校校門	徳吉町1丁目	○	○	○	5.0	1.0	50
⑥		後楽園内白壁塀	後楽園	○	○	○	7.8	1.9	51
⑦		旧岡山市公会堂	内山下2丁目	○	×	×	7.0	1.9	37
⑧		旧三菱銀行岡山支店	表町3丁目	○	×	×	5.6	0.6	37
⑨		柳川交差点	中山下1丁目	○	×	×	—	—	—
⑩		大雲寺町交差点		○	×	×	—	—	—
⑪		旧城下電車停留所		○	×	×	—	—	—
⑫		旧軽便鉄道大多羅駅	大多羅	○	×	×	—	—	—
⑬	私設	倉紡績岡山工場倉庫	中井町2丁目	○	○	○	—	2.9	50
⑭		星島平之助氏宅塀	門田屋敷1丁	○	○	○	—	0.9	50
⑮		旧六高校長官舎	国富	○	○	×	—	2.5	50
⑯		旧六高(旧高)柔道場	古京町2丁目	○	○	○	—	1.6	51
⑰		笠井耳鼻科医院	内山下2丁目	○	×	×	—	—	—

○：確認されたもの ×：失われた物

しまうもので保存運動の緊急性を強く感じ活動を開始した。文献、写真・映画等の映像資料等の収集も行い、15年度の成果品として水位標識の現状報告を中心にしたビデオ①『プレートは語る ～昭和9年室戸台風の痕跡を追って～』が完成した。

16年度 保存運動Ⅱ。(継続調査・ビデオ制作②)

ビデオ制作①を進める中でやがて水位標識が失われてしまうのではないかと考え次の点を中心にさらに活動を展開していった。

- (1) 水位標識は残っているが説明板が無いため存在が忘れられている地点に説明板の設置をする。
後楽園からは数ヶ月の交渉の後了解を得たが、岡山城内に残る水位標識に対する案内板につい



写真3 新たに発見した洪水の痕跡（楠戸武宅床の間）

- ては岡山市と目下交渉中である。
- (2) 16年度の調査で新たに発見した洪水痕跡（資料2）に水位標識と説明版の設置をする。
国富地区で2カ所、西河原地区で1カ所発見し、

昭和9年の室戸台風による洪水時の最高水位標識の保存運動

就実高等学校放送文化部 代表 若松純恵

楠戸武さん宅では測量会社の協力を得て水準測量を実施。またそれぞれの地点で水位標識と説明板設置の了解を得る

(3) 次世代に伝えるため、取材したことをもとに岡山市立三軒小学校5年生74名を対象に総合学習の時間に放送文化部員が授業を実施。小学生の目が輝いていたのが印象に残っている。



写真4 測量会社の協力により水準測量を実施。精度の高い結果を得る。



写真5 楠戸さん宅に最高水位標識と案内板を取り付ける

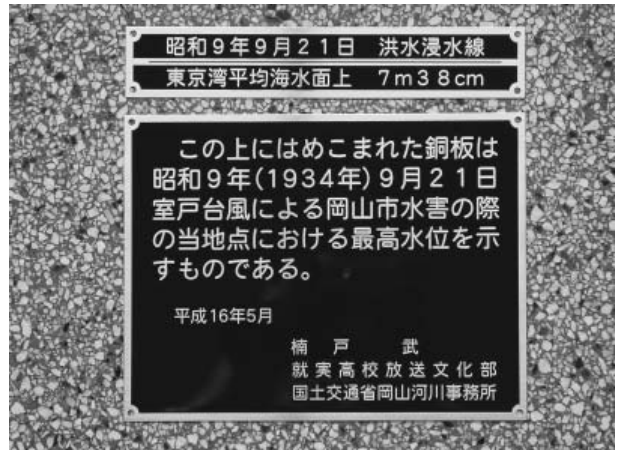


写真6 楠戸さん宅に取り付けた最高水位標識と案内板



写真7 完成した教材プログラム群左奥3冊の書物をCDに収納

資料2 平成16年度新たに室戸台風の洪水痕跡が認められたところ（3カ所）

	保存 要望書	水位標識 置要望書	説明板 要望書	水位標識・ 説明板作成	取付日
楠戸 武宅	○	○	○	○→ ○実行	16/6/4
下山輝子宅	○	○	○	○→	
大林 寺	○	○	○	○→ ○実行	16/6/4

楠戸氏宅測量結果
 海拔 + 7.38m
 道路面 + 1.59m

-
- (4) 水位標識や説明板を小学生と共に設置する。授業に参加した5年生ほぼ全員が参加、関心の高さがうかがえた。
 - (5) 保存運動をビデオ映像化し、16年度の成果品としてビデオ②『プレートは語る 2 ～水位標識の保存を願って～』が完成
 - (6) ビデオ作品2編と収集した貴重な資料（『昭和九年岡山風水害誌』・『昭和九年岡山地方大洪水時の最高水位標識の保存について』・『岡山風水害史』・『昭和9年9月21日暴風雨大洪水調査報告』など4文献）をCDに納めパッケージ化した教材を作成した。今後これらの成果品を、広く岡山県内の小・中学・高等学校や各種関係機関への配布を計画している。

おわりにー今後の活動にむけて

晴れの国と言われ災害の少ない県というイメージが強い岡山県だが、平成16年の夏には台風16、18号が来襲し海岸部を中心に大きな被害を与えた。また続いて岡山に大きな影響を与えた23号台風の豪雨は旭川の警戒水位を超え、百間川へも分流した。このように何年かに一度は大きな洪水に見舞われることもあり、旭川水系も決して安全とはいえない。室戸台風から70年を迎える区切りの年にあたり、これらの水位標識の保存運動を展開することは防災への意識をいっそう高めることにつながると考えこの運動を展開してきた。今後私達の作成したプログラムが活用され、防災への一助になればと考えている。

最後になりましたが本活動を進めるにあたって楠戸武氏、大林寺、岡山市立三軒小学校、岡山後楽園、(株)藤田地質、国土交通省岡山河川事務所など多くの方々や各関係機関に大変お世話になりました。記して感謝の意を表します。